

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

MARCH 2017 vol.35

March						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

ほうこうじ 宝光寺

所在地：一宮市萩原町萩原

交通：名鉄尾西線「萩原」駅 北西 約 800m

一宮市萩原町の宝光寺に震災記念碑があります。明治 24 (1891) 年 10 月 28 日に発生した濃尾地震に関連した復興碑は、愛知県では尾張地方を中心に数多く残されていますが、震災記念碑はそのひとつです。萩原村（当時）は人口 3,894 人、住宅 780 戸の村で、濃尾地震では 62 名の死者、81 名の負傷者を出し、家屋の被害は全壊 569 戸、半壊 88 戸で全壊率は 72.9%にも及んでおり、震災記念碑は、この萩原村の復興を記念し、13 回忌の明治 36 (1903)年に建立されたものです。



濃尾地震からの復興については、内閣府の「災害教訓の継承に関する専門調査会報告書」に、その実情と課題がまとめられています。

復興への行政の対応として、被害の規模が極めて大きかった濃尾地震では、復興に向けた堤防や道路の復旧などは県だけの手には負えないものであり、当初は県において国庫からの補助を申請し、11 月 11 日には 75 万円の下付を受け、県議会でも「濃尾地震ニカゝル緊急土木工事費国庫補助ヲ仰グノ件」として、さらなる国庫の補助を仰ぐ決議がされるなど、積極的に国に支援を要請する動きが見られました。しかし、復興案を策定するなど復興に尽力していた当時の岩村愛知県知事が明治 25 (1892) 年 1 月に病気で非職となったこともあり、結局、その後は復興につい

ての根本的な議論がなされないまま、復興策は十分な展開とならなかったようです。

こうしたこともあり、復興に向けて様々な問題が生じます。濃尾地震で小学校は大きな被害を受け、回復の見込みがない学校が 130 ～ 140 校にものぼりましたが、校舎の復興に必要な財源の手当ては十分にはなされず、地域によっては神社の境内等を使いながら授業を再開するなど、教育の再開は市町村にとって重い課題となりました。

被災者への個別の対応についても、十分とは言えない部分があったようです。報告書では震災により家・家財を失い、子どもを亡くした一家の事例が紹介されていますが、この例を始めとして、「大災前の健康に復すること容易に非ざるべし」状態となった被災者が少なくなく、その結果、北海道へ移住する動きが現実化し、東春日井郡、西春日井郡、丹羽郡の 18 町村から 56 戸が石狩郡生振に、30 戸余りが川上郡愛別に移住しています。（2014.10 月号参照）報告書では、この北海道移住の基本的な原因は、震災から立ち直ることができるような政治的、行政的援助が与えられなかったことである、とされています。

地域で建てられた復興碑には、震災から立ち直ったことを祝福し努力をたたえ合うなど、様々な思いが込められています。報告書では、また一方で、復興への行政的対応の不十分さ（報告書では目線の高さと呼んでいます）に対する思いも込められているように見える、と述べられており、復興に関する問題はこの震災以後の災害でも課題として残されている、とまとめられています。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆ 宝光寺の周辺には…

● 蓮光寺（震災死亡碑）

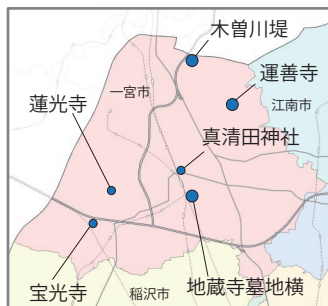
所在地：一宮市三条郷内

交通：名鉄尾西線「二子」駅 北 約 2km

蓮光寺では、明治 24 年（1891）濃尾地震の際に堂宇が倒壊し、明治 39 年（1906）7 月に再建されました。境内には、



濃尾地震の際に旧三条村で亡くなった方を追悼するための「震災死亡碑」があります。



● 地蔵寺墓地横（震災亡霊菩薩塔）

所在地：一宮市本町通

交通：JR 東海道本線「尾張一宮」駅
名鉄名古屋本線「名鉄一宮」駅 南東 約 700m

明治 24 年（1891）濃尾地震

の際に、地蔵寺の建物はことごとく倒壊したとされています。また、寺の墓地横には濃尾地震による死者を供養するため建てられた「震災亡霊菩薩塔」があります。

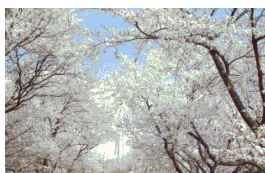
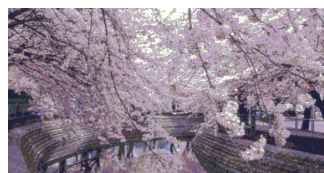


◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 一宮桜まつり

一宮市では毎年 3 月から 4 月にかけて、大江川河畔、木曽川堤、青木川河畔、浅井山公園、真清田神社など、市内の桜の名所で「水と緑と花の春まつり」をテーマに、一宮桜まつりが開催されます。（平成 29 年は 3 月 25 日から 4 月 10 日）

大江川河畔では、大江川の両側に約 330 本のソメイヨシノが咲き誇り、桜まつりの期間中はライトアップも行われ（午後 9 時半まで）、夜桜も楽しむことができます。また、木曽川堤の桜は国指定の天然記念物で、樹齢



大江川河畔（左）と木曽川堤（右）の桜
一宮市観光協会 HP より

100 年を超える桜並木が 4km に渡って続きます。会期中には一部の区域でバーベキューが可能になり、多くの人でにぎわいます。

3 月のあいちの花

平成 29 年 3 月のあいちの花は、ガーベラです。ガーベラは、アジア・アフリカに約 40 種類が分布する、毎年花を咲かせる多年草です。園芸では鉢花・切り花としてよく利用され、多数の園芸品種が存在します。



ヤサシイエンゲイ HP より

長い茎の先にキクのような形の花を咲かせ、白、赤、オレンジ、ピンク、黄など花色が豊富で、2 色咲きのものもあります。また花の大きさも 3cm 程度の極小輪種から 12cm 程度の大輪種までがあります。

● ブレイクタイム ●

♪ 真清田神社

真清田神社は、平安時代に国の大社と認められ、国司を始め人々の崇敬を集めました。国司が国の神社を参拝して回るときに最初に訪れる神社を「一の宮」と呼び、真清田神社が尾張の国の「一の宮」であったことから、門前町であった現在の一宮市が「いちのみや」と呼ばれるようになりました。

境内は一宮市の中心の本通りの正面にあり、拝殿、祭文殿、渡殿、本殿を有する大きな社殿です。本殿は、内陣中陣の扉や柱桁に伊勢神宮から下賜を受けた古材を使用しており、渡殿とともに国の登録有形文化財にも指定されています。



真清田神社 HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaian2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成 29 年 3 月）